

「市民遠泳大会」

「本当に泳ぎきったのですか。凄いですね」と何人かの人から心配されながらも、お褒めの言葉をいただきました。私が、去る7月29日にあった市民遠泳大会に参加し、完泳したことが報じられたのを見てのことです。

この遠泳大会は、明治37年から続いている、まさに歴史と伝統のある行事で、高松市の夏の風物詩の一つといってもいいでしょう。そして、小学生のころ、水泳の選手だった私の憧れの大会でもあり、大人になったらいつか出てみたいと思っていたものでした。

もちろん、そんな思いはとっくに記憶のかなたに消えていたのですが、6月下旬に市のホームページを何気なく見ていて、案内を発見し、とっさに申し込みをさせていただきました。主催の高松市水泳協会の関係者によると、市長本人が泳ぐのは史上初ではないかということで、たいそうありがたがっていただきました。

曇り空の穏やかな夏の休日。沖に行くヨットの帆が映える瀬戸内海。大の場海岸からサンプポートまで、約1.5キロメートルを、船に先導されながら、小学生から最高齢73歳まで50人の参加者が、帽子の色を揃えた隊列を組んで泳ぎました。

思ったより波が高く、若干苦勞はありましたが、差し入れの氷砂糖を口に含みながら、ハンドマイクの「エ～ンヤコ～ラ」の掛け声にあわせて声を出しての遊泳中は、すっかり無邪気な童心を取り戻していました。

そして、日ごろからスポーツジムで鍛えていた甲斐もあって無事、泳ぎきることができました。

感想は、「気持ち良かった」の一言。この夏一番の思い出となりました。